

林木遺伝資源情報

第2号 - 3 2002.9
独立行政法人 林木育種センター



国指定天然記念物の樹木の収集保存シリーズ No.4

九州地方における国指定の天然記念物の収集・保存

林木育種センター 九州育種場 久保田 権

1 はじめに

九州育種場では、国指定天然記念物の樹木のクローンによる遺伝子保存が、1966年にスギの天然記念物収集として始まり、1994年からジーンバンク事業の一環として本格的な収集を実施しています。まだ、未収集や未保存の天然記念物が多数あり、増殖技術等を改善しながら保存件数の拡大を目指しています。

天然記念物を保存するまでには、文化財保護法に基づく現状変更の許認可事務、指定天然記念物からの小枝の採取（以下「採穂」という）、つぎ木等によるクローン増殖、健全な育苗など、多くの手間、労力、技術力を必要とします。以下に、九州育種場のこれら取組みの現況と今後の対策を紹介します。

2 保存現況

九州・沖縄で指定されている植物の国指定天然記念物は534件あり、そのうち九州育種場で増殖可能と判断される天然記念物の樹木及び樹林は95件あります。



写真1 遺伝資源保存園（下の城のイチヨウ）

これまでに巨樹、老樹、北限・南限の樹林あるいは代表的な植物群落などを重点的に、イチヨウやクスノキ等から採穂とつぎ木やさし木による増殖を実施し、24件のクローン苗を育種場内の遺伝資源保存

園に定植保存しています（表-1、写真1）。また、温室では現在増殖中のものが26件あり、順次定植保存する予定です。

表-1 保存した国指定天然記念物			
名 称	所在県	保存樹種	系統数
英彦山の鬼スギ	福岡	スギ	1
新舟小屋のクスノキ林	福岡	クスノキ	6
黒木のフジ	福岡	フジ	1
下合瀬の大カツラ	佐賀	カツラ	1
女夫木の大スギ	長崎	スギ	1
諫早市城山暖地性樹叢	長崎	クスノキ	1
大村神社のオオムラザクラ	長崎	オオムラザクラ	1
阿蘇北向谷原始林	熊本	スギ	10
阿弥蛇スギ	熊本	スギ	1
金比羅スギ	熊本	スギ	1
手野のスギ	熊本	スギ	1
下の城のイチヨウ	熊本	イチヨウ	1
竹の熊の大ケヤキ	熊本	ケヤキ	1
妙見の大ケヤキ	熊本	ケヤキ	1
藤崎台のクスノキ群	熊本	クスノキ	2
大杵社の大スギ	大分	スギ	1
柞原八幡宮のクス	大分	クスノキ	1
尾崎小ミカン先祖木	大分	コミカン	1
狭野のスギ並木	宮崎	スギ	1
八村スギ	宮崎	スギ	1
去川のイチヨウ	宮崎	イチヨウ	1
瓜生野八幡のクスノキ群	宮崎	クスノキ	2
高岡の月知梅	宮崎	ウメ	1
湯ノ宮の座論梅	宮崎	ウメ	1
計	24件		40

3 収集・増殖・保存の取組み

〔収 集〕

天然記念物から採穂する場合、文化財保護法に基づく現状変更の許認可事務が必要で、「何時でも、何でも、幾つでも」採穂させてもらえるものではありません。たとえ1件でも採穂許可を得るまでには数ヶ月かかり、また、衰退の激しい林分やシンボルの存在及び信仰などにおいて住民との関わりが深い場合は所有者、管理団体及び住民の理解が得

られるまで長い時間を要します。

一方、実際の天然記念物の採穂現場では、樹体の状況を慎重に観察し、樹勢や樹形に影響しないように、また増殖性を考慮し、採取する小枝の本数、長さ、穂の良否を適切に判断する必要があります。

[増殖]

つぎ木で増殖する場合は、あらかじめ適した樹種や苗齡の台木を事前準備することが不可欠であり、樹液の流動が止まる冬に採穂して冷蔵庫で春まで眠らせておき、台木の樹液が動き出す直前を見計らってつぎ木を行います(写真2)。

さし木の場合は増殖の適した時期から判断し、採穂する時期が決まります。一般に、春ざしと梅雨時期に行う夏ざしがあります(写真3)。



写真2 温室でのつぎ木（ケヤキとイチヨウ）



写真3 温室でのさし木（イチヨウ）

300年～1000年以上の老樹や無性繁殖の困難な樹種からのクローン苗の養成は、熟練を要するつぎ木技術や様々な研究成果から得られたさし木手法を組み合わせて行います。そして活着・発根後も、苗畑や温室で健全な苗木に育成する技術を必要とします。特につぎ木では、つぎ穂が台負けしないように台木の枝葉を的確に切除することが重要です。

[保存]

このようにしてできた貴重なクローン苗は、育種場内の遺伝資源保存園に植え付けた後も気象害や病虫害に対して保護しています。

4 今後の取組み

[収集]

未収集の国指定天然記念物については九州育種場に保存可能で貴重な遺伝資源と思われるものから優先的に収集し、穂木の配布など利用可能な生きた天然記念物のクローン図鑑のような保存園を造成して行きたいと思います。

[増殖]

これまでの成功あるいは失敗した増殖の方法を整理し、よりの確にクローン増殖を行えるようなマニュアルを作成する必要があります。

また、増殖に成功しても凍・霜害により保存園内で枯れることがあるので、植え付ける前の順化を十分に行うとともに(写真4)植栽後数年間は保存木の滅失を防ぐため、いつでも再増殖できるように採穂用の母樹を鉢植えにするなど移動可能な状態にして、温室等での保管を行うことが必要です。

[保存]

同一育種場内でも気象条件や土壌条件が微妙に異なるため、対象樹種に適した場所に保存する必要があります。

保存木の保護管理では特にウメ・サクラなどの病虫害防除を徹底して行う必要があります。

[特性調査]

スギやケヤキなど特に重要な樹種は早期に保存を完了し特性調査を行い、各種科学研究の利用促進を図る必要があります。



写真4 野外での順化（クスノキ）